

令和6年産水稻現地指導会（2回目）資料

令和6年7月6・7日

J Aしまね斐川地区本部 営農第一課

1.生育調査結果

品種名	移植日	調査日	調査地点	株/坪 (株間)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	※葉色 (葉色板)	葉齢	幼穂 形成期
つや姫	4/25	6/25 (+61)	出東	50 株 (21 cm)	29.0	460.3	62.2	34.8 (4.1)	10.2	6/27
つや姫	4/28	6/25 (+58)	出東	60 株 (18 cm)	24.9	461.1	59.8	40.2 (5.1)	11.0	6/29
つや姫	4/30	6/27 (+58)	出東	45 株 (25 cm)	26.2	349.4	61.6	43.0 (5.7)	11.0	6/28
つや姫	5/3	7/1 (+59)	出東	50 株 (21 cm)	28.6	433.3	72.2	39.4 (5.0)	10.9	6/30
つや姫	5/4	7/1 (+58)	伊波野	50 株 (21 cm)	28.8	436.4	72.0	40.5 (5.2)	10.5	7/3
コシヒカリ	5/11	7/1 (+51)	直江	60 株 (18 cm)	24.7	457.4	62.1	35.8 (4.3)	10.3	7/2
きぬむすめ	5/19	6/27 (+39)	莊原	50 株 (21 cm)	31.3	496.8	60.5	39.2 (4.9)	9.0	-
きぬむすめ	5/26	7/1 (+36)	出東	60 株 (18 cm)	24.3	450.0	53.2	41.0 (5.3)	8.9	-
きぬむすめ	5/31	7/1 (+31)	伊波野	50 株 (21 cm)	24.5	371.2	53.4	39.5 (5.0)	8.5	-

※葉緑素計（SPAD）による値：平均値×0.2-2.9=葉色板の数値

《つや姫》

初期生育は緩慢で茎数は少なかったものの、その後回復し、茎数は平年並み～やや多い。

4月末～5月上旬植えは、幼穂形成期に入っています。

5月中旬植えも幼穂形成期になるころです。体系施肥の場合、穂肥時期となります。

《コシヒカリ》

初期生育は緩慢で茎数は少なかったものの、その後回復し、茎数は平年並み～やや多い。

5月中旬植えは、幼穂形成期に入りました。間もなく穂肥の時期となります。

品質向上や倒伏防止のため、生育に応じた肥培管理を行いましょう。

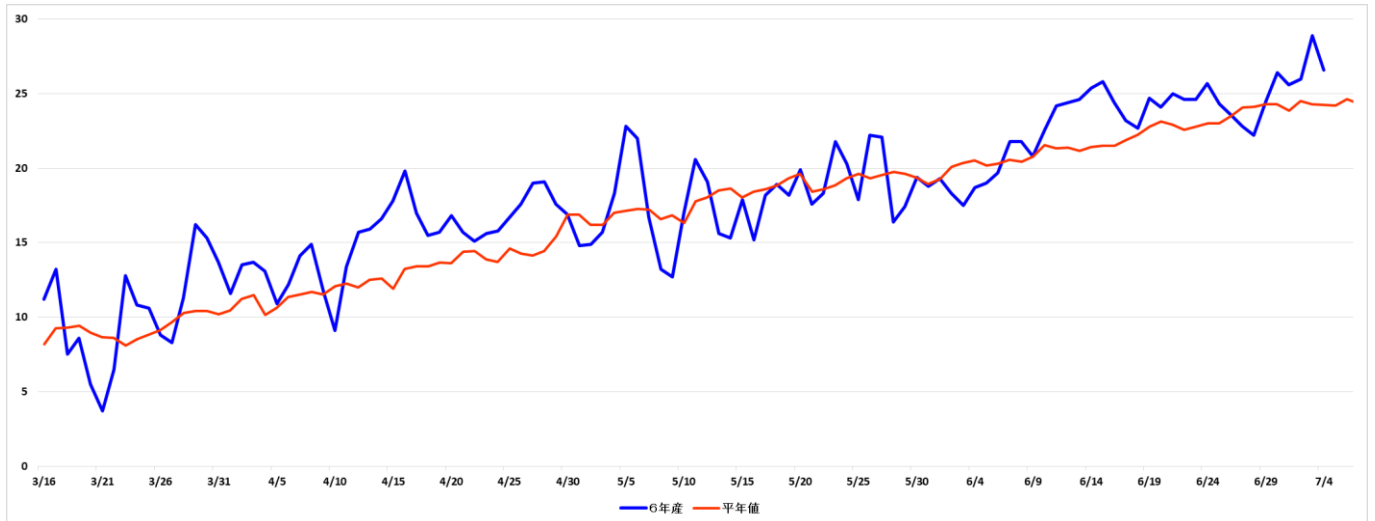
《きぬむすめ》

葉色は濃く、茎数は多い。5月下旬植えは、最高分げつ期を迎えます。

急激に茎数が増加する時期なので、中干しを実施していない場合は早急に行いましょう。

また、葉色などの生育を確認し今後の肥培管理を進めましょう。

令和6年産稲作期間 斐川平均気温推移（3月中旬～）



※データ観測地点：斐川 ※平年値：2003～2022年の斐川の平均

中国地方1ヵ月（7/6～8/5）予報（7月4日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）			
気温	中国地方	向こう1ヵ月 07/06～08/05	10 (低) 20 (平) 70 (高)
		1週目 07/06～07/12	10 (低) 20 (平) 70 (高)
		2週目 07/13～07/19	20 (低) 30 (平) 50 (高)
		3～4週目 07/20～08/02	20 (低) 30 (平) 50 (高)
降水量	中国地方	向こう1ヵ月 07/06～08/05	20 (低) 30 (平) 50 (高)
日照時間	中国地方	向こう1ヵ月 07/06～08/05	40 (低) 40 (平) 20 (高)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2. 穂肥の施用

【つや姫】

肥料名	施用量	施用時期	備考(目安)
げんき2号	20 kg	幼穂長 1~2 mm (出穂 25 日前)	4 月下旬植え: 6 月 28 日頃 5 月上旬植え: 7 月 1 日頃 5 月中旬植え: 7 月 5 日頃

※「げんき2号」以外は使用できません。

※葉色板 5.0 (SPAD 値 40) 以上の場合、施用時期を遅らせたうえに減肥しましょう。

(幼穂長 5~10 mm (出穂 20~15 日前) にげんき2号 10~15 kg/10a)

○基肥一発型肥料 (OK有機入り一発) の場合

原則、穂肥の必要はありません。

ただし、**幼穂形成期頃(7月上旬)**に、**葉色板 4.0 (SPAD 値 35) 以下まで淡くなった場合は**追肥を施用しましょう。

「つや姫」に追肥を行う場合は、特別栽培米基準の範囲内 (化学肥料の窒素成分量合計が 4 kg/10 a 以下) となるよう計算して施用しましょう。

例えば・・・

基肥にOK有機入り一発を 50 kg/10a 施用した場合、
追肥はげんき2号を 8 kg/10a までの施用となります。

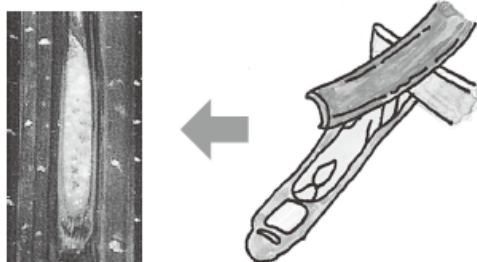
肥料名	容量	N	P	K	うち化学 N
NEW だいち	20 kg	2.0 kg	2.4 kg	1.6 kg	1.370 kg
げんき2号	20 kg	2.6 kg	0.6 kg	1.6 kg	2.206 kg
OK有機入り一発	20 kg	2.4 kg	1.6 kg	1.2 kg	1.200 kg

○幼穂長を確認しましょう。

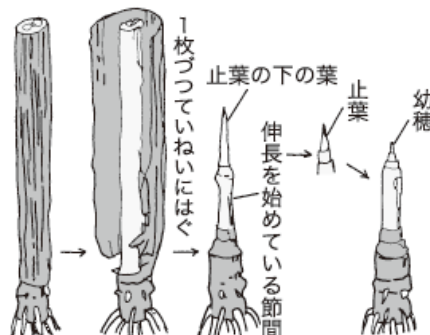
【幼穂の確認方法】平均的な株の一番背の高い茎を根元から抜き取る

(1) カッターなどで割る

(茎をうすく削いでゆく)



(2) 葉さやをむく



【コシヒカリ】

肥料名	施用量		施用時期	備考(目安)
燐加安 403	1 回目	10 kg	幼穂長 5 mm (出穂 20 日前)	5 月中旬植え:7 月 8 日頃 5 月下旬植え:7 月 13 日頃
	2 回目	10 kg	1 回目の 7~10 日後	

※上記は基準量です。下記の目安を参考に茎数と葉色を確認し調整して下さい。

※高度化成 17-0-17 は、10 kgを、7 月 15 日頃(出穂 15 日前)に施用する。

※硫安入 NP 化成は、8 kgを、7 月 15 日頃(出穂 15 日前)に施用する。

○コシヒカリ燐加安 403 施用量の目安 (10a)

葉色 (葉色板)	茎数 (1 株当り)	穂肥 1 回目	穂肥 2 回目
4.0 未満	20 本未満	10 kg	10 kg
	20 本以上	無施用	15 kg
4.0 以上 4.5 未満	—	無施用	15 kg
4.5 以上 5.0 未満	—	無施用	10 kg
5.0 以上	—	無施用	無施用

倒伏防止には・・・

○第 4、5 節間の伸びる出穂 30~20 日前の肥効をおさえる。

茎数が多く葉色が濃い場合は、1 回目の穂肥の施用時期を基準より遅らせたうえに減肥するなど工夫しましょう。

○倒伏軽減剤：ロミカ粒剤 (2~3kg/10a、出穂 25~10 日前)

上位節間の伸長を抑制し倒伏軽減効果があります。

【きぬむすめ】

肥料名	施用量		施用時期	備考(目安)
燐加安 403	1 回目	10～15 kg	幼穂長 5 mm (出穂 20 日前)	5 月中旬植え:7 月 20 日頃 5 月下旬植え:7 月 25 日頃
	2 回目	15 kg	1 回目の 7～10 日後	

※上記は基準量です。下記の目安を参考に葉色を確認し施用量を調整して下さい。

※高度化成 17-0-17 は、10 kg(1 回目)+10 kg(2 回目)の合計 20 kg

※硫安入 NP 化成は、8 kg(1 回目)+8 kg(2 回目)の合計 16 kg

※「きぬむすめ特別栽培米」の場合、「げんき」を施用する。

○きぬむすめ燐加安 403 施用量の目安 (10a)

葉色 (葉色板)	穂肥 1 回目	穂肥 2 回目
4.0 未満	15 kg	15 kg
4.0 以上 5.0 未満	10 kg	15 kg
5.0 以上 5.5 未満	無施用	10 kg
5.5 以上	無施用	無施用

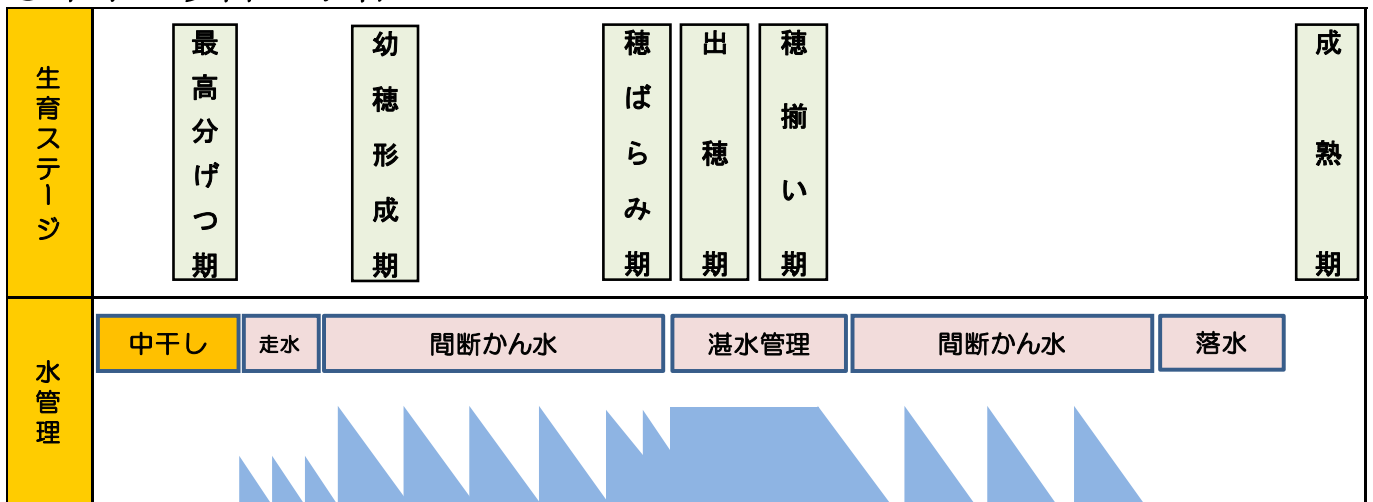
(つなぎ肥)

現在、概ね葉色は濃く推移していますが、7月上旬に、葉色板 4.0 (SPAD 値 35) 以下まで淡くなった場合は、燐加安 403 10kg/10a 施用しましょう。

○基肥一発型肥料 (ツバメコート SLH20、ふるさと 588) の場合

7月下旬～8月上旬に、葉色板で 4.0 (SPAD 値 35) 以下まで淡くなった場合は
燐加安 403 10～15kg/10a 施用しましょう。

○中干し以降の水管理



【水管理イメージ図】

○中干し終了後は、急激に入水させると根傷みの原因となるため走り水を行ってから出穂期まで間断かん水を継続し、新鮮な水の入替えやガス抜きを行って根の活性化を促しましょう。

間断かん水とは

水を浅く張る → 自然に減水 → 2~3日干す → 水を浅く張る

○出穂期から穂揃い期は最も水が必要な時期になるため湛水管理を行きましょう。

○出穂期から穂揃い期に強風が吹く場合や、フェーン現象が心配される場合は深めに水をはり、稲体を守りましょう。

○穂揃い期以降は、間断かん水を行きましょう。間断かん水の期間は出穂後25日は必要です。根の活力を維持するとともに収穫に近づくにつれて、かん水の回数を減らし、収穫に備えて土壌を少しずつ固めていきましょう。

○落水時期は収穫の7日前を基本としましょう。

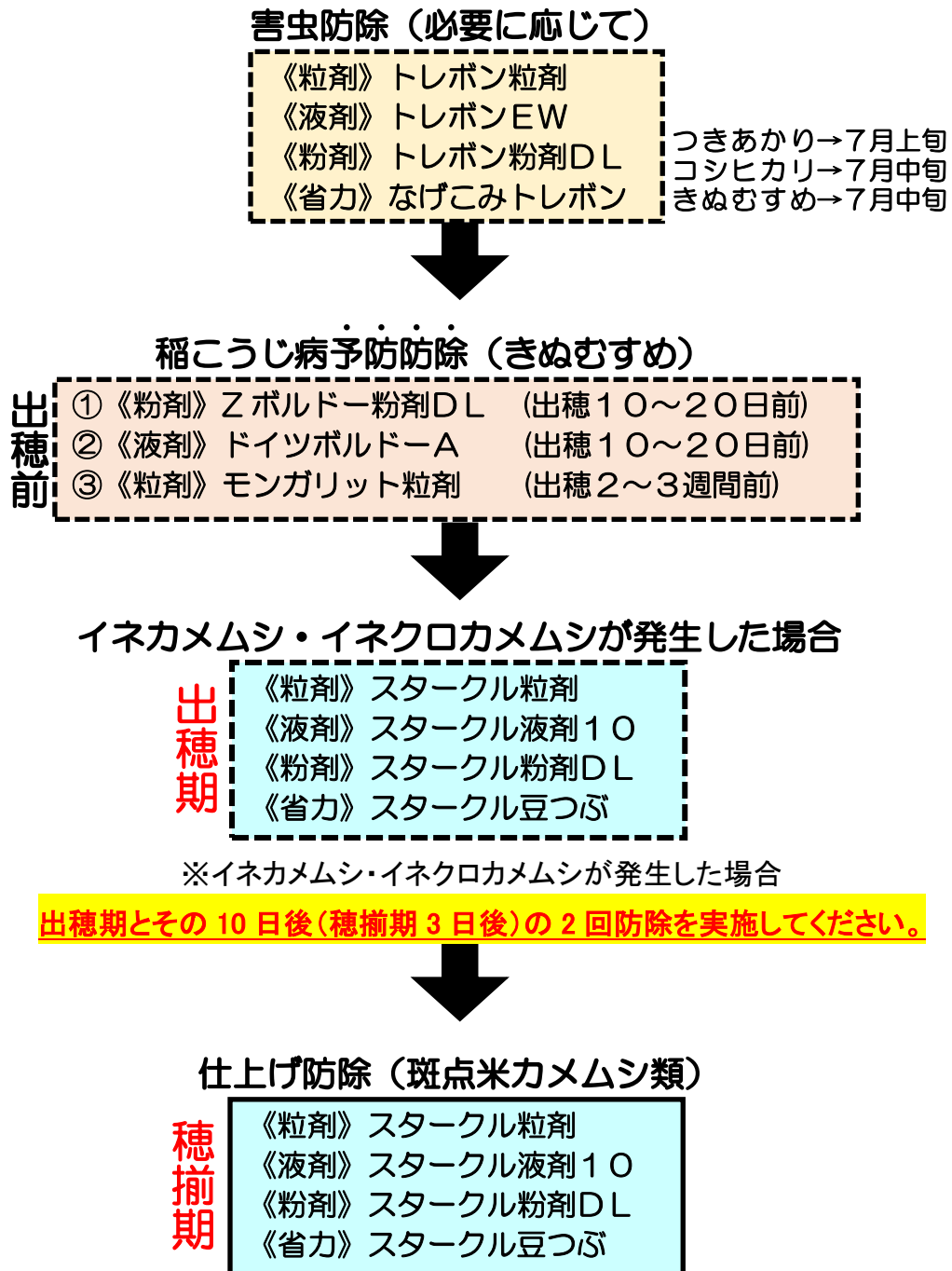
玄米の大きさが決まるまでには、出穂してから約4週間かかります。

概ね最初の1週間で開花・受精、次の1週間で玄米の長さが決まり、その次の1週間で玄米の幅が決まります。最後の1週間で厚みが決まるため、早く落水した田んぼの米は最後の厚みが十分でなく、粒厚の薄い米になってしまいます。

登熟期間の水管理は湛水状態にするのではなく、間断かん水を行い、地固めをしながら玄米を太らせます。

3.病虫害防除

一般米：つきあかり、コシヒカリ、きぬむすめ本田防除体系



※突発的な病虫害が発生した場合、随意防除を実施して下さい。

「つや姫」「きぬむすめ特別栽培米」 本田防除体系

「つや姫」「きぬむすめ特別栽培米」は、**スタークルを1回のみ使用可能**です。(特別栽培米基準)
イネカメムシ・イネクロカメムシの発生の有無で防除時期を決めましょう。

イネカメムシ・イネクロカメムシ	防除時期	防除薬剤
発生した場合	出穂期	《粒剤》スタークル粒剤 《液剤》スタークル液剤10 《粉剤》スタークル粉剤DL 《省力》スタークル豆つぶ
発生しなかった場合	穂揃期	

※スタークル(粒剤・液剤・粉剤・省力)は、**1回のみ使用可能**です。

そのため、出穂期に防除を実施した場合、穂揃い期の防除はできません。

※6年産より、トレボン(粒剤・液剤・粉剤・省力)は使用できません。

「イネクロカメムシ」「イネカメムシ」は、

日中株元に潜んでいます。

発生した場合は、**出穂期にスタークル**で防除しましょう。

つや姫・きぬむすめ特別栽培米で発生した場合は、

出穂期防除を優先してください。

(スタークルは1回のみ使用可能)



株元に潜むイネクロカメムシ

○出穂とは

穂の先端が止葉葉鞘の先端を押し開き、
少しでも抽出した状態を“出穂”といいます。

しゅっすいはじめ 出穂始	田んぼ全体の10~20%の株が出穂したとき
しゅっすいき 出穂期	田んぼ全体の 40~50% の株が出穂したとき
ほぞろいき 穂揃期	田んぼ全体の 80~90% の株が出穂したとき。 通常、出穂期の2~3日後



病害虫防除のポイント

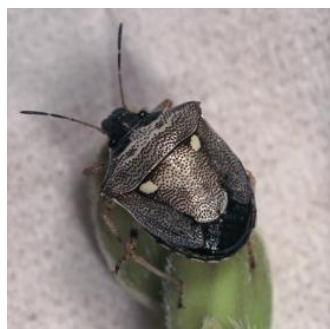
○斑点米カメムシ類



クモハリカメムシ
体長:16 mm程度



ホソハリカメムシ
体長:10 mm程度



トゲシロホシカメムシ
体長:5 mm程度



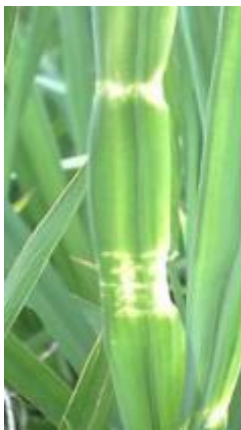
アカシカスミカメムシ
体長:5 mm程度

ヒエが多いと発生しやすく、吸汁被害による斑点米は等級格下げ要因となります。
畦畔の雑草で増殖し水田内に侵入するため、**出穂2週間前までの畦畔の草刈りが有効**です。
出穂4~5日頃の乳熟期から被害が多くなるため、穂揃い期に防除を実施しましょう。

○「イネクロカメムシ」と「イネカメムシ」



イネクロカメムシ
体長:10 mm程度



イネクロカメムシ:葉の被害



イネクロカメムシ:葉先の被害



イネカメムシ
体長:12~13 mm

「イネクロカメムシ」: 3年産より斐川町内でも発生が確認され、食害による白穂や株枯れ、不稔粒の増加による減収被害を受けました。**年々、町内の生息地域が拡大しており、畦畔際で被害株を見かけたら注意が必要です。**

越冬成虫が6月頃水田に侵入し、稲の汁を吸いながら卵を産み、幼虫は6月下旬頃より始め、稲の汁を吸いながら8月下旬には成虫となります。

被害は、分けつ抑制・白穂の発生など収量に大きく影響します。

「イネカメムシ」: 近年全国的に被害が急拡大しており、昨年島根県でも被害が確認されました。雑草を好む斑点米カメムシ類とは異なり、**直接水田に侵入するため、畦畔の草刈りによる予防が困難です。**斑点米を発生させるほか、出穂期に籾の基部を加害することにより**不稔粒を発生させるため減収となる可能性があります。**稲から稲へと移動するため、**晩生品種や遅い作型では特に注意が必要です。**

斑点米カメムシ類と異なり、**出穂期とその10日後(穂揃い期3日後)の2回防除が推奨されています。**(詳しくはチラシを確認)

○いもち病

穂いもちの発生は出穂期の気象に左右されることが多い。
出穂期である7月下旬から8月が低温、多雨の年には発生が多い。
近年町内においても、穂いもちが発生している。穂いもちは減収に繋がるため、防除は葉いもちの発生を抑制することが重要。

置き苗が感染源となっているため置き苗は早急に除去する。

現在栽培されている品種では「コシヒカリ」「きぬむすめ」での発生が多く、昨年もごく一部で穂いもちの多発により減収したほ場が確認された。

箱処理剤が施用できない**直播栽培等で特に注意が必要。**



葉いもち

穂首いもち

○紋枯病

菌核を形成し越冬するが低温にも強いので越冬能力が高い。
このため、発生したほ場では次年産でも発生が懸念される。
高温多湿の年に発生が多く、株元の風通しが悪いと甚大な被害につながる。対策として、

①予防効果のある箱処理剤を選定する

②過繁茂とならないように初期生育を抑制する等がある。

極端な窒素肥料の多用を避ける。直播栽培などで注意が必要。



紋枯病発病株

○稲こうじ病

被害わらや種粃で越冬した病原菌が第1次伝染源となります。

黒い菌核が発生してからの薬剤防除の効果はなく予防防除のみとなる。

発病する条件は以下のとおり

①過去に多発したほ場

②生育後半の窒素が多いとき

③出穂前20日間に低温多雨の気象条件時



稲こうじ病

農薬適用一覧（移植水稻）

【本田防除剤】（殺虫剤）

薬剤名	適用病害虫名	使用量 (10a 当)	使用時期 (収穫前)	使用回数	成分数
スタークル粒剤	ウンカ類、ツマグロコバイ、ニカメイチュウ、 イネトヨイムシ、カメムシ類、 イネミスゾウムシ	3kg	7 日前まで	3 回 以内	1
スタークル液剤10	ツマグロコバイ、カメムシ類、ウンカ類	1,000 倍 60～150L	7 日前まで	3 回 以内	1
	カメムシ類、ウンカ類	300 倍 25L			
スタークル豆つぶ	カメムシ類	250g	7 日前まで	3 回 以内	1
	ウンカ類、ツマグロコバイ	250～500g			
スタークル粉剤DL	ウンカ類、ツマグロコバイ、カメムシ類、 イナゴ類、イネトヨイムシ、ニカメイチュウ、 フタオビコヤガ	3 kg	7 日前まで	3 回 以内	1

※「つや姫」・「きぬむすめ特別栽培米」は、「スタークル(粒剤・液剤・粉剤・省力)」を1回のみ使用可能です。

【随意防除】

薬剤名	適用病害虫名	使用量 (10a 当)	使用時期 (収穫前)	使用回数	成分数
トレボン粒剤	イネミスゾウムシ、イネトヨイムシ、 イネゾウムシ、イネヒハモグリバエ、 イナゴ類、ウンカ類、ツマグロコバイ	2～3kg	21 日前まで	3 回 以内	1
	ニカメイチュウ第1世代	3kg			
トレボンEW	ウンカ類、ツマグロコバイ、イナゴ類、 イネトヨイムシ、カメムシ類、 イネミスゾウムシ、コブノメイガ	1000 倍 60～150L	14 日前まで	3 回 以内	1
	ウンカ類 ツマグロコバイ	300 倍 25L			
トレボン粉剤DL	イネツムシ	4kg	7 日前まで	3 回 以内	1
	カメムシ類、イネミスゾウムシ成虫 ツマグロコバイ、ウンカ類、コブノメイガ アザミウマ類、イナゴ類、イネトヨイムシ ニカメイチュウ	3～4kg			
	イネヒハモグリバエ、フタオビコヤガ	3kg			
なげこみトレボン	イネミスゾウムシ、イネトヨイムシ	水溶性容器 4～6 個(200～300ml)	5 葉期以降 21 日前まで	3 回 以内	1
	ウンカ類、ツマグロコバイ ニカメイチュウ第1世代	水溶性容器 10 個(500ml)			
	イナゴ類、イネクカメムシ	水溶性容器 6～10 個(300～500ml)			

※6年産より「つや姫」・「きぬむすめ特別栽培米」は、「トレボン(粒剤・液剤・粉剤・省力)」は使用できません。

薬剤名	適用病害名	使用量 (10a 当)	使用時期 (収穫前)	使用回数	成分数
アミスターエイト	いもち病、紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	1000~1500 倍 100~200L	14 日前まで	3 回 以内	1
	稲こうじ病、穂枯れ(すじ葉枯病菌)、 変色米(カーブリア菌)、変色米(エピコッカム菌)、 変色米(アルタナリア菌)	1000 倍 100~200L			
	いもち病、紋枯病、稲こうじ病、 変色米(カーブリア菌)、変色米(エピコッカム菌)、 変色米(アルタナリア菌)、 穂枯れ(ごま葉枯病菌)、穂枯れ(すじ葉枯病菌)	300 倍 25L			
リンバー粒剤	紋枯病 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌)	3~4kg	30 日前まで	2 回 以内	1
ブラシンプロアブル	いもち病、稲こうじ病、ごま葉枯病、もみ枯細 菌病、内穎褐変病、墨黒穂病、変色米(アルタナ リア菌)、変色米(エピコッカム菌)、変色米(カーブ リア菌)、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、褐条病	1000 倍 60~150L	7 日前まで	2 回 以内	2
		300 倍 25L			
バリダシン液剤5	紋枯病、もみ枯細菌病 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌)	1000 倍 60~150L	14 日前まで	5 回 以内	1 (カウ ント)
	紋枯病	300 倍 25L			
カスミン液剤	いもち病	1000 倍 60~150L	穂揃期まで	2 回 以内	1 (カウ ント)
スミチオン乳剤	ニカメイチュウ第 1 世代	1000~2000 倍	21 日前まで	2 回 以内	1
	ニカメイチュウ第 2 世代、 サンカメイチュウ第 3 世代	800~1000 倍			
	ヒメビウカ、カメムシ類、イネツムシ、イネシガレセン チュウ、イネドロオウムシ、アブラムシ類、アワヨトウ	1000 倍			
	イネハモグリバエ	1000~2000 倍			
	イネヒハモグリバエ	2500 倍			
	フタオビコヤガ	2000~4000 倍			
	ニカメイチュウ、カメムシ類	300 倍			
パダン粒剤 4	ニカメイチュウ、イネツムシ、コブノメイガ、 フタオビコヤガ、アザミウマ類	3~4 kg	30 日前まで	6 回 以内	1
	サンカメイチュウ第 3 世代、 スクミンコガイ(食害防止)	4 kg			

【稲こうじ病防除】

薬剤名	適用病害名	使用量 (10a 当)	使用時期 (収穫前)	使用回数	成分数
Zボルドー粉剤DL	稲こうじ病	3~4kg	出穂 10 日前 まで(※)	—	1 (カウ ント)
	墨黒穂病	4kg			
ドイツボルドーA	稲こうじ病、墨黒穂病	2000 倍 60~150L	出穂 10 日前 まで(※)	—	1 (カウ ント)
モンガリット粒剤	紋枯病、稲こうじ病、墨黒穂病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌)、疑似紋枯症(赤色 菌核病菌)、疑似紋枯症(灰色菌核病菌)、 疑似紋枯症(褐色菌核病菌)	3~4kg	30 日前まで (※※)	2 回 以内	1
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 穂枯れ(すじ葉枯病菌)	4kg			

- 1.稲こうじ病は黒い菌核が発生してからの薬剤防除の効果はありません。
- 2.稲こうじ病は防除適期が限られていて、早く散布しても遅すぎても効果が劣ります。
粉剤・液剤(※)は出穂 10~20 日前、粒剤(※※)は出穂 2~3 週間前に散布する。
- 3.銅剤(Zボルドー粉剤 DL・ドイツボルドーA)を使用する場合は、出穂期以降は稲に薬害を生じやすいため、
出穂 10 日前以降の使用は避けること。

【倒伏軽減剤】

薬剤名	使用目的	使用量(10a)	使用時期	使用回数
ロミカ粒剤	節間短縮による倒伏軽減	2～3 kg	出穂 25～10 日前まで	1 回

【無人航空機（ドローン）薬剤】

薬剤名	適用病害虫雑草名	希釈倍数 使用量	散布液量 (10a)	使用時期	使用回数
クリンチャーEW (展着剤加用)	ノビエ	100ml	0.8～1.6L	移植後 20 日～ ノビエ 4.5 葉期 但し、収穫 30 日前まで	2 回 以内
バサグラン・エアー 1 キロ粒剤	一年生雑草(イネ科を除く) 及びマツハイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ、ミスガヤツリ、 ウリカワ、クログワイ、オモダカ	1kg/10a		移植後 15～55 日 但し、 収穫 60 日前まで	1 回
トレボンエアー	イナゴ類、ウンカ類、 カメシ類、コブノメイガ、 ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ	8 倍	0.8L	収穫 14 日前まで	3 回 以内
スタークル液剤 10	ウンカ類、カメシ類	8 倍	0.8L	収穫 7 日前まで	3 回 以内
	ウンカ類、ツマグロヨコバイ	16 倍	1.6L		
	ウンカ類	30 倍	3L		
スミチオン乳剤	ニカメイチュウ、カメシ類	8 倍	0.8L	収穫 21 日前まで	2 回 以内
アミスターエイト	いもち病、紋枯病、稲こじ病、 変色米(カーブリア菌)、 変色米(エピコッカム菌)、 変色米(アルタナリア菌)、 穂枯れ(ごま葉枯病菌)、 穂枯れ(すじ葉枯病菌)	8 倍	0.8L	収穫 14 日前まで	3 回 以内
バリダシンエアー	紋枯病	8 倍	0.8L	収穫 14 日前まで	5 回 以内
カスミン液剤	いもち病	8 倍	0.8L	穂揃期まで	2 回 以内
ブラシンプロアブル	いもち病、ごま葉枯病 もみ枯細菌病、内穎褐変病、 墨黒穂病、稲こじ病、 変色米(アルタナリア菌)、 変色米(エピコッカム菌)、 変色米(カーブリア菌)、 穂枯れ(ごま葉枯病菌)、褐条病	8 倍	0.8L	収穫 7 日前まで	2 回 以内
ビームエイト スタークルゾル	いもち病、ウンカ類、 カメシ類、ツマグロヨコバイ	8 倍	0.8L	収穫 7 日前まで	3 回 以内

農薬使用にあたっては、必ずラベル表示（使用時期、使用量、倍率、使用回数）を確認し、適正に使用して下さい。

お問合せ先

J A しまね 斐川地区本部 営農第一課

T E L : 0853-73-9616